きめ細かな対応による家庭との連携

■ 家庭への働きかけの重要性

○　児童生徒が不登校になったとき、保護者も大きな悩みや不安を抱えることになる。そのため、学校として保護者の心を支え、保護者がその役割を適切に果たすことができるよう援助し、**保護者と共に取り組む姿勢**が重要である。そのためにも、保護者の話に耳を傾け、対応策を一緒に考えたり、保護者が要望等を伝えやすい雰囲気づくりに努めたりする必要がある。

■ 家庭訪問実施上のポイント

○　保護者への働きかけの一つとして、**計画的・継続的な家庭訪問の実施**がある。家庭訪問のポイントとして、次の点があげられる。

①　必要に応じて、学年主任等が担任と一緒に家庭訪問する。
②　本人、保護者に会えない場合は、手紙等をポストに入れる。
③　原則として、学校行事等、学校の情報は遺漏のないよう伝える。
　※　状況によっては、学校の話題に触れることを望まない場合もあるので、確認をしっかりしてからにする。
④　不登校の状況や保護者・児童生徒のニーズなども踏まえ、不登校解消のための多様な選択肢を情報として伝えるようにする。
　※　関係機関を紹介する場合、「学校から見放された」という感覚を抱かせないよう配慮する。
⑤　家庭訪問が逆に事態を悪化させることがある。あくまでも状況に応じて弾力的に行うよう十分留意する必要がある。

■ 保護者相互のネットワークづくり

○　ＳＣやＳＳＷが保護者に直接関わって不登校を解決した事例が増えてきている。それぞれの役割を把握し積極的な活用を図りたい。さらに、同じ悩みを持つ保護者同士が、本音で話し合うなどの交流を持つことも、子どもへの関わり方のヒントを得ることや、先の見通しをもつことができるなどの点で、保護者の心の支えとして有効である。そのため、**「親の会」の結成**を促し、保護者相互のネットワークづくりを推進することが期待される。

◆　Ｏ中学校では、**不登校相談会（ホッとする集い）**を開催し、不登校傾向の生徒をもつ保護者の悩みの共有化を図っている。特に、かつて不登校生徒をもった経験のある卒業生の保護者による講話が大変有効であった。

■ 対応が困難な家庭との連携及び信頼関係づくり

○　保護者の中には、なかなか連絡がとれないなど、対応に苦慮する場合もある。家庭訪問することが、かえって事態を悪化させてしまうこともある。保護者が望む家庭訪問の仕方や、場合によっては、家庭訪問以外の連携の取り方などを、保護者とともに考えることも大切である。また、**関係機関との連携**を図り、家庭への介入方法を検討していく必要もある。

◆　Ｐ中学校では、保護者全体に対して、次のような手立てを講じながら学校に目を向けさせていく働きかけに力を入れることにより、学校に協力的でない家庭や連絡がとれない家庭との連携に取り組み、効果をあげている。
①　学校・学年だよりの発行やＷｅｂ掲載等により、学校の様子を伝えるとともに、学校を大いにＰＲする。
②　親子で参加できる行事等を増やし、学校に足を運ぶ機会を多くする。
③　保護者へのアンケート調査を実施し、意見等を真摯に受けとめ改善を図る。